

「自由」がただひとつのテーマ。 ジャンルレスな創作Webマガジン「in-Sight インサイト」を開始！

静静岡県拠点の出版社「在野社」が、作品の形態やジャンルを問わない無料の創作Webマガジンを2026年2月16日にオープン。キャッチコピーは「もっと、自由に、なれる」。「おもしろがる、なにかつくりたくなる」をモットーに掲げる。

2026年2月16日、合同会社在野社(本社:静岡県沼津市高沢町1-9-1110、代表・編集責任者:浅野葛)は、ジャンルレスな創作Webマガジン「in-Sight インサイト」(<https://in-sight.zaiyasha.jp>)をオープンします。



サイト概要

「in-Sight インサイト」は、無料で購読できるジャンルレス／クロスメディアな創作Webマガジンです。

in-Sight

「in-Sight インサイト」ロゴ
<https://in-sight.zaiyasha.jp/>

ただひとつのテーマは「自由」。それをどのように解釈するかも書き手や読み手の皆様の「自由」に委ねられます。「自由」とは非常に多面的な意味をもつことばですが、私たちは、身近にある生活を大切にし、そこから見える『世界』をおもしろがることだと定義します。そして「ここに来れば、なにかつくりたくなる」。書き手から読み手へ、熱が広がっていく。そして「自由」を求める私たちの想いはいっそう加速していく。そのような景色がうまれることを夢見ています。

文芸(小説・エッセイ・詩歌等)／コミックス／写真／音声・映像等、掲載する作品の形態は不問、ジャンルも限定しません。オリジナルの映像作品や「本」にまつわるポッドキャスト番組の企画制作など、Web媒体という特性を生かしたクロスメディア展開や、関連グッズ制作も予定しています。既存の方法論にとらわれず、柔軟な発想で「出版」にあたらしい価値を見出したいと考えています。

また良好なコンテンツ体験を担保するため、コンテンツ内へのバナー広告等の挿入は実施しません。チップ(投げ銭)、グッズ販売収益、協力金等を運営資金に充当します。

【コンセプト】

身近にある生活から「世界」を見る、おもしろがる

スター性に富んでいる書き手、あるいは刺激的なテーマの作品ではなく、自らの生活から見えるものを描き、楽しむ、おもしろがる視点をもつ書き手を取り上げます。

視点はバラバラでもひとつの媒体で編むことによって、それぞれに固有でありつつ、どこかで重なり合う部分(普遍性)をすくいあげることにつながるのではないかと考えます。

また「おもしろがる」ことは、他者の尊厳を損ねることと同義ではありません。どのようなヘイト的な表現にもおもねることのないよう、編集と運営には厳しく当たっていきます。

書き手から読み手へ、熱が広がっていく 読めばなにかつくりたくなる

読んでおもしろい「だけ」にとどまらず、読者自身のクリエイティビティを刺激し、「私たちもなにかをつくりたい、動きだしたい！」というアクションの喚起に結びつけることも目標のひとつです。

ひいてはクリエイティブの裾野を広げることで、社会のありように一石を投じたいと意気込んでいます。

出版の未来を追求する／盛り上げる

「in-Sight インサイト」発案の源泉には、本を一冊出すことに多額の資金を必要とし、制作期間も長期に渡るという(とりわけ中小の)出版社を悩ませる現状に対する「アンサー」があります。

この取り組みの柱は、初期費用を抑えつつ比較的迅速にコンテンツを出せるWeb媒体の強みを活かすことで出版社の「最新」をお伝えするのですが、「出版のこれから」を追求する拠点としても活用したいと考えています。

また「in-Sight インサイト」は在野社独自のオウンドメディアとしてではなく、他の出版事業者様や書店関係者様との連携も視野に入れ展開していきます。出版の世界そのものを盛り上げていけるような媒体に育てていきたい所存です。



【コンセプトアート】

せきやよい

プロフィール

宮崎県出身・イラストレーター | 京都芸術大学非常勤講師
書籍やWEBの挿絵、装画、メインビジュアル制作のほか、漫画やアニメーションなど幅広く制作しております。ストーリーや生活感、空気感を感じる人物描写、背景を描くことが好きです。(Webサイト <https://yayoiseki03.wixsite.com/yayoiseki31/about> より)

掲載作品について(リリース時)

各方面で活躍中の小説家、文筆家が「in-Sight インサイト」の理念と取り組みに共感くださり、すばらしい力作が揃いました。現在、校正中の作品も多数ありますが、ここでは公開の準備が整った作品をご紹介いたします。

短編小説



カバー画像 (撮影: 浅野葛)

「オクシデンタル・ディアゴナル414」 江藤健太郎

6年ぶりに再会した皿は「バルセロナでイカれた女に襲われた」と訴え、いつもの調子で語り出した。——皿は夫婦水入らずの「新婚旅行」バルセロナ滞在を楽しみにしていたが、渡航数日前に元ミュージシャンの夫がとある理由で自分自身のパスポートを消失し、ひとりぼっちで現地へ飛ぶことになる。

現実の輪郭を歪ませることがかえって「生きることの手応え」を鮮烈にあぶり出す。江藤健太郎、渾身の一作。

<https://in-sight.zaiyasha.jp/contents/loxeGtE>



界繫 (かいけ) 星埜まひろ

十年前、中学卒業を前に自分と母に暴力を振るい続けていた父が家を去り、ようやく平穏を手に入れたはずだった。しかし、心と身体に刻まれた暴力の記憶は消えない。

ある夜、バーで出会った見知らぬ男との対話をきっかけに、透は父と会うことを決意する。

新銃・星埜まひろがしなやかな感性でくい上げる、消えない傷と「過ち」をめぐる物語。

<https://in-sight.zaiyasha.jp/contents/oqyeNvM>

エッセイ



カバー画像 (提供: 橋ばぶか)

草葉の陰でみててよね 橋ばぶか

小さな頃から「死」を恐れていた作者。大好きなひとたちにずっと元気に長生きしてほしいと願うも、時間の流れはみんなが健康に生きているという「あたりまえ」の土台をおびやかす。

「草葉の陰からみてるよ」が口癖だった祖母の死に際し、作者が感じたことは——。

<https://in-sight.zaiyasha.jp/contents/bjrpz2k>

評論文



『ノーチョイス (選択肢ないよ)』の向こう側～ 『バクちゃん』と、読むことの倫理～ 小池陽慈

「地球は好き?」、そんな問いに返されたのは、「ノーチョイス (選択肢ないよ)」という言葉だった——。

宇宙移民をテーマにしたマンガ『バクちゃん』(増村十七/KADOKAWA)を題材に、僕たちが他者の「証言」を聴き、受け止める際の倫理を問い直す。

<https://in-sight.zaiyasha.jp/contents/UqTJgccP>

そのほか、「青空文庫」収蔵のパブリックドメイン(著作権保護期間終了)作品から厳選してお届けする「青空文庫名作選」も展開します。今後も魅力的な書き手の紹介を予定しておりますのでお楽しみに!

クラウドファンディングについて

https://motion-gallery.net/projects/in-Sight_zaiyasha

【開催概要】

・実施期間:

2025年12月1日(水)12時から2026年3月25日(木)23時59分まで

・実施プラットフォーム:

Motion Gallery(モーションギャラリー)

<https://motion-gallery.net/>

・募集金額:

100万円

・返礼品一例:

選べるオリジナルグッズ／設立記念冊子／寄稿者サイン入りポスター／クレジット記名／連載支援……等

【本件に関するお問い合わせ先】

合同会社在野社(ザイヤシャ) 担当: 浅野

電話(直通): 080-6960-0798

メール: info@zaiyasha.jp

【会社概要】2024年5月、静岡県沼津市に設立。「そこに、息吹が、あれば。」をミッションに掲げ、志をもつ作り手と共に鳴し、真に価値ある書籍や視聴覚コンテンツ(音声・映像)を出版する。2025年5月『となりのとらんす少女ちゃん』(とら少・著/ISBN978-4-9913920-0-9)を刊行。本書収録作品を原作とする映画が2026年秋ごろ公開予定。

【所在地】静岡県沼津市高沢町1-9-1110 【設立日】2024年5月9日 【代表社員】浅野葛 【資本金】50万円 【事業内容】書籍および音声・映像等創作物の出版 各種クリエイティブの制作請負 飲食店の運営

►Webサイト <https://zaiyasha.jp>